

ハードカプセルを正しく理解しましょう！

一部メーカー営業でハードカプセルの危険性について誤解の生じる表現や説明をされているところもありますので、誤解を招かない正しい説明をしておかねばなりません。

1. ソフト(ボディ)タイプとハード(ボディ)タイプ

健康管理機器としての酸素カプセルは、ソフトタイプが主流でした。

主にアスリート等が疲労回復やコンディショニング調整、ケガの早期回復等を目的に利用し、持ち運びができる、可搬性の良さが一番の特徴です。

その可搬性の良さが裏目に出ることも多く、運搬方法や扱い方が雑であると素材を傷めやすく、耐久性に難があることも否めません。

ハードカプセルは、ソフトカプセルと比べ、可搬性は劣りますが、その**耐久性やユーザーの使い勝手、出入りのし易さ等が改善されたもの**です。基本的な原理はソフトもハードも全く同じです。

ソフトタイプとハードタイプ、どちらもメリット、デメリットがあります。どちらが良い悪いではなく、**用途により選択**するのがよいでしょう。

2. 密閉性について

酸素カプセルは密閉性がしっかりしていないとなかなか加圧しません。

加圧時のエアリー漏れをカバーするには、エアリー漏れに勝るエアリーを供給せねばならなくなり、被験者が急激な加圧に耐えざるを得ないことにもなりかねません。

弊社ハードカプセルの**コントロールは自動で行う制御装置**付です。

弊社のカプセルは、本体にも制御装置にも**二重三重の安全機能**を備えた**顧客重視の安全設計**となっております。

- ① 停電や電源遮断のときには、弁が自然開放となり、通常減圧が開始されます。
- ② 加圧や気圧保持中もカプセル内の空気は常に循環しています。常に空気は新鮮です。
- ③ 減圧完了時には、出入り口のスライドドアが自然落下し、密閉空間とならないようになっています。
- ④ カプセル本体には外側と内側から手動で排気できる弁がついており、緊急時には20秒以内で減圧、脱出可能となっています。

ファスナーによる出入りとなるソフトカプセルは脱出時の困難さがあるかも知れません。

また、ソフトカプセルは“わざと”エアリー漏れをしているとの触れ込みもありますが、加圧のことを考えると少量のエアリー漏れであると思いますので、減圧終了時にそのまま寝た状態が続くと一酸化炭素中毒とまではいかなくても息苦しくなるのではないでしょうか。

3. 酸素濃縮器について

弊社の酸素カプセルは、酸素濃縮器が外付けで装備されています。

この酸素濃縮器の用途は、カプセル内の人間の口元までノズルが直接引き回されており、約10L／分の流量の酸素を吸引できるようになっています。

- ① カプセルの加圧は、酸素濃縮器では行っておりません。通常の「**空気加圧**」です。約80L／分のクリーンな空気を送り込んでいます。
- ② 酸素濃縮器の酸素濃度は約50%です。口元に送っていますが、鼻カニューラマスクや呼吸マスクのように直接吸引していないため、分散しているのが実態ですので、やや高めにしてあります。
- ③ カプセルの中は、加圧中や気圧保持中も中の空気は常に循環しています。そのため**カプセル内の酸素濃度は30%以内**となっています。

4. 安全面について

弊社の酸素カプセルは安全性については、十分考慮したものとなっております。

- ① コンプレッサー、電磁弁、ファン、気圧メータなど使用部品の**90%以上が国産品**であり、PSEやCEマークなどの適合品です。
- ② ソフトタイプと違い、ハードタイプは**素材疲労が圧倒的に小さい**ため、万が一にも破裂したとしても部分的な空気の漏れ(スライドドア周りの広がりなど)であり、大きな衝撃にはなりません。
- ③ 組立構造、ネジ止めは全て内側から外側に向けて、圧力が掛かる方向からを基本にしています。過剰圧力があっても部品が外にも内にも飛び散ることがありません。
- ④ 不意な電源遮断、停電時、気圧センサの異常時は通常運転と同様に減圧処理が行われます。
- ⑤ 気圧上限値に到達した場合、異常な加圧勾配や減圧勾配が感知された場合、運転が停止され、通常減圧処理が行われます。
- ⑥ 最大耐圧は1.3気圧の2倍にあたる1.6気圧までの耐久性があります。実証済です。
- ⑦ 緊急な減圧処理をするための手動排気弁が標準装備です。カプセルの外側と内側の両方から操作できます。手動排気弁による操作で、1.3気圧から大気圧まで約20秒で一気に緊急減圧が可能です。
- ⑧ 操作リモコンがカプセル内に持ち込み可能なので、一人での操作も容易に安全にできます。

国内で開発、生産しているからこそ、安心した品質で、ユーザーズにマッチした手の届く改善、改良が可能です。十分な知識、経験とノウハウをもって研究・開発に取り組んでいるつもりです。

5. アフターサービスについて

どんな商品でも買ったあとの対応が大事です。自社開発、生産しているからこそ、専門のエンジニアによるきめ細かな、スピーディーな対応が可能です。弊社はアフターサービスを大事にしております。

営業中に何かあった時の対応を速やかに行えるよう、365日対応可能なコールセンターも開設しました。

保証期間終了後のメンテナンス契約対応も整備されています。

以上